



# なかるくごう

大田区立仲六郷小学校  
令和4年3月23日  
校長 山本 秀一

強く正しく美しく みんな仲よし仲六郷

## 「くじけない子」になったか…?

校長 山本 秀一

仲六郷小学校の俳句コンテストをおこなってきました。

「おこなってきた」といっても、基本的には「港子先生」こと特別支援教室専門員小林先生にお任せの状態。港子先生は、教員室前に設置した投句箱の中をたしかめるのを日課としており、投じられた子どもの俳句ひとつひとつに丁寧な講評やコメントを付けて賞状にさせていただきます。私がすることといえば、その賞状の句をよみ、「おもしろい」「なるほど」「いいねえ」などつぶやきながら、印を押す程度のもの。小林先生の熱心さ、子ども愛、教育愛には、深く敬意を感じています。それにしても、本当によく続けてくださる。けっして本務をおざなりにすることなく、この取組を根気強く続けている港子先生には「くじけない子の賞」を差し上げなくては、と考えていました。

ところが、その港子先生が「校長先生、ちょっと無理です」とめずらしく弱気な言葉で来室。手には分厚い紙束があります。いわく「1年生の〇〇さんが、まとめて31句も投句してくれました。とてもうれしいけれど、ちょっと無理です。校長先生、この中から一つだけ選んでください」...えらい子がいたものです。小学校に入って新しく習った文字をつかい、一句一句に力を込めて鉛筆を進める姿を想像しながら、〇〇さんにも「くじけない子(1)賞」を渡したくなりました。預かった紙束を一つずつよみ、私が選んだのは「いのちはね ずっとたいせつ いちばんね」という一句。ニュースでは感染症や外国の戦争など、不安な話題が中心を占める最近の日々の中で、率直で素朴であたたかな子どもの言葉が、静かに胸を打ちます。

令和3年度の教育活動がまもなく終わりを迎えます。子どもたちには「よくがんばった。お疲れさま」と伝えたいと思います。新型コロナウイルス感染症対策により、これまでどおりの学校運営がなかなかまともにできない中で、何よりも心配だったのが子どもたちの「心」への影響です。そこで、本校の教育目標に5番目の項目「くじけない子」を加えて、今年度をスタートしました。1年間を終える時期、子どもたち一人一人は「くじけない子」になることができただけでしょうか。

まもなく卒業式を迎える6年生の皆さんは、十分な達成感と自信をたずさえて巣立っていくことができるでしょうか？

一つずつ学年が上がる1～5年生の皆さんは、よい形でステップアップすることができそうでしょうか？

日々の様子を見ると、かならずしもそうではない子も少なからずいるのではないかなと感じています。自分自身にものたりなさを感じている子、ちょっと悔いが残る子などもいるのではないのでしょうか。

でも実は、それはそれで立派なメタ認知です。間違いなく自信をもってよいことなのです。ただし、なんでもかんでも「人のせい」「出来事のせい」「世の中のせい」などと片付けてしまわないこと。まずは、自分がどうあるべきかを考えるところから、次の一步を始めることができます。

校庭では、1年生が育てているチューリップが花を咲かせ始めています。赤、ピンク、むらさき... 色も様々、成長のスピードも様々です。早く咲いたことに喜びを感じることもあれば、卒業式や4月の入学式に合わせたタイミングで咲くことや、あとからじっくりと咲いてラストを飾ることなども、きっと大きな喜びとすることができるでしょう。人の才の開花も同じこと。価値は多様であり、捉え方次第です。



難しい課題に直面してもくじけない。自分の思いどおりにいなくてもくじけない。ほかの人とうまくいかないことがあってもくじけない。くたびれてしまってもそんな簡単にはくじけない。

仲六郷小学校の子どもたちには、これからも「なかよくする子・かんがえる子・こころゆたかな子・はたらく子・くじけない子」へと成長することを目指してほしいと願っています。

令和3年度を結ぶにあたり、保護者・地域の皆様には、仲六郷小学校の教育活動に対して大きな御理解と御支援をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

お蔭様で、残すは24日の6年生の卒業式、25日の1～5年生の修了式のみとなりました。それぞれ最高の1日となるように、そして子どもたちを次のステップへとつなげられるように、教職員一同、精一杯努めます。

令和4年度 第1学期 始業式

令和4年4月6日(水)

8:15～25登校 9:25頃下校

新しい学年・学級を、新しい友達と共に  
新しい気持ちでスタートさせましょう!

